NSP通信
第9号
2013.10月
NSP
株式会社 エヌ・エス・ピー
http://www.kknsp.jp

リニア中央新幹線　ルート・中間駅発表

ＪＲ東海が２０２７年に東京（品川）～名古屋間、約２８６㎞の先行開業を目指すリニア中央新幹線の詳しいルートと駅の位置を発表しました。

リニア中央新幹線

〈リニアの経済効果は？〉

三菱ＵＦＪリサーチ＆コンサルティングの試算によると２０２７年までのリニア建設工事にかかる効果で「事業効果」として、沿線地域を中心とした建設投資額は約５・１兆円。それに伴う生産誘発効果は約５兆円と見ており、事業効果としては合わせて約10兆円規模になります。具体的にはリニア車両や線路、駅への投資のほか、生産誘発効果として、建設業界以外にも、例えばコンクリートや鉄鋼の資材発注など他業種にも回ります。

リニア中央新幹線は、２０２７年には名古屋までが開通する予定ですが、２０４５年に開通する予定の「品川～大阪」までが建設できた場合の施設効果は、17兆円にのぼる見込みで（名古屋までなら10・７兆円）、一気に開通した方が経済効果はより大きいものになります。

〈中間駅　岐阜県中津川市では〉

ＮＳＰ本社の所在地、岐阜県中津川市も岐阜県の中間駅として発表されました。また、中部車両基地も建設されることが決定しました。

地元では新たな雇用、観光客や企業の誘致、地域の活性化に大きな期待が寄せられています。岐阜県の新しい東の玄関口として、発展する事を切に願います。

岐阜県中津川市のリニア誘致ポスター

◆現場リポート

〈九州メガソーラーでNSP型枠〉

福岡県宮若市の旧貝島炭鉱跡地（約30万㎡）に総出力19・5ＭＷ（メガワット）のメガソーラー（大規模太陽光発電所）を、大和ハウス工業㈱様と大和エネルギー㈱様（いずれも本社大阪市）が建設し、２０１３年10月より、発電を開始するそうです。このメガソーラーは、九州地方では７番目、福岡県では３番目の規模となります。

年間予定発電量は約２０００万Ｋｗｈとなり約４２００世帯分の電力量となります。

完成イメージ

その現場のコンクリート基礎を設置する際、木枠より鋼製型枠が「早く」「綺麗に」仕上がると言う事で、当社の鋼製型枠が採用されました。

今回の現場では、約３ｍの大きさのパネル（以下アレイといいます）に２列の基礎を設置します。全体数にして実に３１７７アレイ、基礎の数にすると６３５４箇所の基礎を作るそうです。

お客様には、鋼製型枠が工数削減に貢献できていると喜んで頂けました。

基礎施工状況

太陽光パネル設置工事をご検討されているお客様がいらっしゃいましたら、当社の鋼製型枠を利用して工数を削減されては如何でしょうか？

また、ソーラーパネルを載せる架台の製作相談も承りますので担当営業員にお尋ね下さい。

ソーラーパネル設置現場

◆空調服の完売御礼とお詫び

今年の夏は大変な猛暑と異常気象が目立つ年でした。

その影響からか、当社が取り扱っている「空調服」の売行きが大変好調でした。

この商品は長袖ブルゾンの為、一見暑そうに見えますが、上半身の隅々まで空気が行き渡り汗をかいても外部から取り入れた空気が汗を蒸発させ、蒸発した気化熱が体を冷やす構造になっています。又、フード付きを購入すれば後頭部から頭全体を冷やす事もできるので、皆様から大変ご好評を頂きました。

ご購入頂いたお客様からは、『空調服が大変役立った。』『良い商品を紹介してくれた。』『この先、無しでは居られない。』など喜びの声も多数頂きました。

その一方で、余りの売行きのよさに早々に商品が無くなってしまい７月中旬より、ご注文を頂いても出荷出来ない事態が発生してしまいました。

沢山のお客様にご迷惑をお掛けした事をお詫びいたします。

来年度はさらに在庫数を増やし、早々からお得な予約セールを実施する予定にしています。服のバリエーションも増やすことが決定していますので是非ご利用下さい。

◆下水道展2013年東京

7月30日から8月2日まで、東京ビッグサイトで行われた「下水道展2013年東京」を見学して来ました。この展示会は、1987年からほぼ毎年開催されており、今年で26年目になります。

展示会の内容は、下水道事業に関するすべてを網羅すると言っていいほど充実した内容で、毎年8万人前後の来場者があります。

この下水道展を見学すると、その年ごとに下水道のどんな分野が今後有望なのかを大まかに掴むことが出来ます。

今年は、まず「循環型の水ビジネス」関連の展示に目を惹かれました。

水処理の分野では、自治体の処理施設の老朽化が進んでおり、日本では大きな問題となっています。その為、世界でもトップレベルにある「省水型の水管理システム」への変更を見据えた展示が多いように感じました。

次に目をひくのが、老朽管の改築更新（管更正）関連のブースです。

大口径管の更生技術や、小口径管の更生技術について、数多くの企業や工法が出展されており、今後注目する必要がある内容であると痛感いたしました。

SPR工法

下水道の普及率が、全国平均で75・8％（平成23年度末）に達しましたので、下水道の新設管向けの土留レンタルは、今後減少していくのは間違いありません。

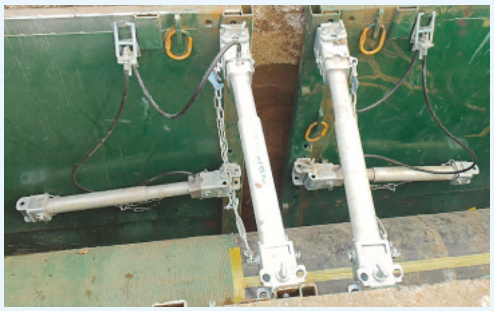
当社としては、この「管更正分野」にも積極的に関与できる製品を開発して行きたいと思います。

営業所からの投稿

今回は、東関東営業所から、ガスパイプライン工事に、当社のGPL土留を使用した投稿がありましたのでご紹介致します。

東京ガスは、茨城県における天然ガスインフラ整備計画を、早期に具体化していくことを決定し、緊急時におけるガス相互融通体制の整備を施工中です。

この計画は、茨城県日立市にLNG（液化天然ガス）基地を建設するとともに、同基地を拠点に、県内各地の天然ガス需要に応じパイプラインを敷設し既存のパイプラインに接続するものです。


水圧スイング式サポート

今回、この日立港～真岡市、また五霞町から草加市（埼玉県）への2箇所の現場におきまして、当社が開発した、「GPL土留」（水圧スイング式土留め）を採用して頂きました。

今回の現場の鋼管は、1本が12mと長く、管径も600ミリあり、しかも、取り扱いは非常にデリケートで、少しの傷も付けてはいけません。

従来は、油圧ジャッキ、H鋼材、鋼矢板、などを使い、少しづつ管を降ろしては、ジャッキを盛り替えるという手間な作業が必要でしたが、この「GPL土留」はそれを一気に解消することができました。

切り梁部分に「アルミ製スイング式水圧サポート」を採用したことで、長尺鋼管を水平に吊り降ろすことができるようになり、管を敷設する手間が大幅に短縮することができました。

安全面におきましては、専用のアルミ製フェンス、はしご、を装備してますので安心です。

ご使用頂きました施工業者様からは、

・堀り初めから管埋設完了までのスピードが非常に早まった。

・現場での登り降りが、少なくなって、体力面でもずっと楽になった。

・矢板でなく簡易パネルなので、埋め戻しと引き抜きが、かなり早い。

・組立がシンプルなので部材紛失が減った。

など好意的なご意見を多数頂きました。

詳細は弊社営業マンがご説明に伺わせて頂きます。お気軽にお問い合わせください。

東関東営業所　相原　孝

～編集後記～

NSP通信もはや9号を発行するに至りました。このタイミングで、当社の人事異動に伴いNSP通信の編集長が交代することになりました。

創刊号当時からの「お客様との架け橋のひとつとしてご利用頂けるような記事」を忘れることなく、皆様に発信して行きたいと思います。

また、現場や、お客様からの声なども積極的に記事にしてみたいと思いますので、ご協力の程よろしくお願い致します。

編集長　長尾　誠二